AMCoR
Asahikawa Medical College Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

旭川放射線技師会会誌 (1997) 19巻:19～20.

米国核医学会(SNM)に参加して―国際学会へのお誘い―

佐藤順一

米国核医学会(ＳＮＭ)に参加して
－国際学会へのお誘い－

旭川医科大学附属病院放射線部　佐　藤　順　一

好みの違い、と言ってしまえば仕方がないが、私は朝食に蜂蜜たっぷりの甘い菓子（マフィン）など食べる気には到底なれない。まして、ちょっと二日酔い気味の時はなおさらである。それを妙に酸っぱいジュースと共に仕方なく口に運びながら、自分の英会話の力無さを痛感した。学会場の朝食コーナーでの事である。列の順番が私に回って来たとき、前の人と同じ物を頼む事以外、すべがなかったからである。

こんな調子ではあったが、全くの偶然と幸運から昨年に引き続き本年（1996)、６月にデンバーにて開催された米国核医学会（ＳＮＭ）総会に幸運にも参加する機会を得た。ＳＮＭは核医学に関しては最大規模の学会で、医師のみならず技師・薬剤師・装置メーカを含め医学物理・生物・分子生物学などの様々な分野の研究者が参加しており、４日間の開催期間中の参加者は8000人以上であった。米国では各学会誌に掲載された論文が、他よりどれだけ引用されたかの件数を調べる酔狂な機関があり、その引用件数より学会のランク付けがされる。そのため米国の学会では、論文はもとより発表に関しても、質を維持するため演題採択の審査が厳しく行われるため、常に新しい話題や、独創的なもの、種々の領域にわたる興味深い演題が多い。ＳＮＭもそれに洩れず、日本の学会とは異なる視点の様々な話題にあふれ、とても刺激的であった。なお残念ながら核医学の話題というものは放射線技師の分野では非常にマイナーなため、一般的な印象についてのみ、以下述べることにする。

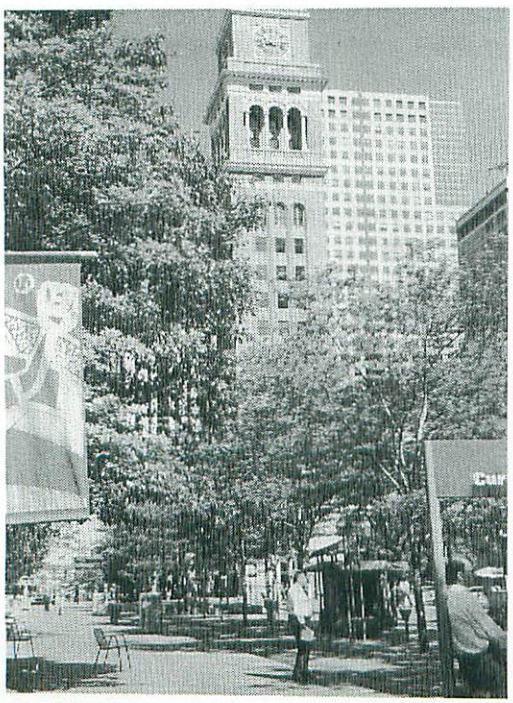
デンバー市内にて（中央・佐藤氏）

ＳＮＭの印象としては、米国では医師や技師といった分野による垣根が殆ど感じられず、それぞれの専門を尊重し合って仕事を進めていく感が強かった。また非常に勉強熱心な方が多く、会場が開く早朝７時よりコーラ片手にマフィンをほおばりながらポスターセッションを眺める方も多く、感心させられた。演題は口演・ポスターを含め約1300題ほどであった。口演はスライド２面、座長２名で行われ、発表12分・討論３分で時間が延びてしまうことは皆無であったが、発表が終わったとたんに会場のマイクの前に質問者が並ぶ姿が見られ、また

会場（デンバーコンベンションセンター）

6題終了毎の休憩時間に集まって討論している姿などには驚かされた。このように生真面目な反面で、会場となる部屋番号がプログラムと実際と異なるなどの、いいかげんな面が混在した学会であった。ポスターセッションにおいては座長制である日本の多くの場合と異なり、演者が指定された時刻に自分のポスターボードの前に立って質問を受ける、という形式が多い。この場合、自分のポスターの前に行くということは最低限のエチケットであるとされているが、現実には日本人とインド人がさぼって行方をくらます例が後を絶たないということであった。もし多くの技師の方が国際学会に興味をもっていただき、それを身近なものとして感じていただければ、この拙い報告の役は果たしたものと思われる。

ところで何故、国際学会なのであろうか。それは面白いからであり、最先端の話題が多く、日常とはまた違った刺激が得られる点にある。しかし短所として金銭的負担や言葉の問題、トラブルや仕事へのしわ寄せ、といった問題も無視できない。実際に何らかのトラブルに巻き込まれる可能性は特に米国では高く、一般的な海外旅行における事故のみならず、荷物の紛失や飛行機の遅れ・交通機関の連絡やリコンファームのトラブル・ホテルの予約ミスなどの問題が、言葉の壁と共に降り懸かる懸念が拭えない。加えて食事や酒・タバコといった、もっと切実な件で困る場合が多いのも事実である。しかし、ＳＮＭやＲＳＮＡといった大きな学会の場合、必ず多くのそれも英語の達者な日本人が必ず参加しているはずなので、無責任ではあるが、何とかなるものと信じている。

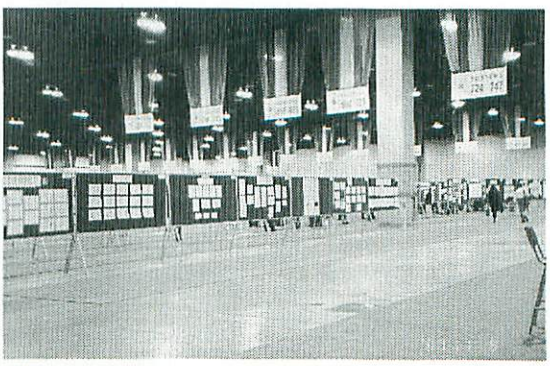


デンバー市内

では、どの様な学会があるのであろうか。国内にても同様であるが、学会にはＲＳＮＡ（北米放射線学会）やＳＮＭといった演題採択の審査が厳しい、「まじめな学会」と、「お祭り学会」があり、観光目的であれば後者が望ましいが、どちらを選択するかは個人の趣味の問題であろう。これらは、それぞれの学会誌に情報が掲載されており、演題の募集・事前登録（キャッシュカードにて支払い）などが郵便やファックスで行えるようになっている。また国際学会を専門とする旅行代理店もあり、そちらにお任せすれば、旅行・宿泊は何とかなるものと思われる。しかし、暴動やテロ事件が発生して中止になってもお金は返してくれない。

この様にみると、国際学会も日本の学会と同様に身近な存在であり、ちょっと勇気を出せば参加できる世の中となってきている。たまに非日常の世界に足をのばして見ませんか？。ということで、これから今後国際学会をのぞいてみよう、と考えている方の何かの参考となれば幸いである。

最後に、ＳＮＭ参加に際して多大なご協力をいただいた当院核医学スタッフの皆様、および当院放射線部の皆さんに感謝いたします。またこの様な発表の機会を与えていただきました旭川放射線技師会の皆様に感謝し、この拙稿を終わらせていただきます。



ポスター会場